

学校だより

令和7年1月31日(金) 第10号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>



朝読書を考える

校長 細井博幸

先日の大寒（1月20日）は、暦の上では1年で最も寒くなる時期ですが、さいたま市の最高気温は14.2度と3月中旬並みのポカポカ陽気。今月も平年より気温が高いとの予報もあります。東京では、1月8日に花粉の飛散が開始したとの発表があり、これまで最も早い記録1月31日を20日以上更新しました。スギ花粉の飛散量は、夏の暑さと関係がありますが、今年の夏は統計史上1位タイの高温でしたので、今年も花粉の飛散量は多くなるそうです。花粉症の私は、すでに目のかゆみや鼻がムズムズし始めています。

さて、この時期は次年度に向け、年間行事予定や日課の検討が進められています。その中で「朝読書」が話題に挙がりました。朝読書は、約40年前に千葉県私立女子高校での小さな取組が始まりと言われていています。「毎日やる」「皆でやる」「好きな本だけでよい」「ただ読むだけ」の4つの原則で朝読書を始めたところ、生徒に集中力がつく、自信と思いやりの気持ちが芽生える、教師や生徒、家族との間に会話が増える、遅刻者が減少するなどの変化が見られたとのこと。こうした成果から、全国に取組は広がり、今では8割以上の中学校で朝読書が実施されています。全国学校図書館協議会が毎年行っている「学校読書調査」によると、昨年度一か月に読む本の冊数は、中学生で平均5.5冊と調査開始以来最多となっています。ちなみに保護者の皆さんの世代である30年前は、1.8冊であることを考えると、スマホやゲームなどで今の中学生は読書離れが進んでいるとい切れないようです。とはいえ雑誌離れは顕著であり、長編の本より時間の掛からない本が好まれているそうです。また、蔵書や掲示物等の環境も充実している学校図書館にも関わらず、年間貸し出し冊数は昨年度を下回る見込みといった課題もあります。

本校では朝読書をどのように充実させていくべきか議論が進められています。朝読書の大切さはどの先生方も理解しつつ、朝読書の目的やルールを明確にすることで必要性や効果を高められないか、スタサプタイムや主体的に学習する時間との割合をどうするかなど、朝読書の時間の検討が進められています。さらなる読書活動の充実を図ってまいります。

暦の上では間もなく立春を迎えます。1, 2年生は進級に向けて、そして3年生は進路決定と卒業を目指し、生徒一人ひとりが今、目標に向かって取り組んでいます。どうぞ、地域・保護者の皆様、引き続き温かい声援と見守りをお願いいたします。

●令和6年度さいたま市教員等の勤務に関する意識調査結果より

先月、教職員を対象として実施された「令和6年度さいたま市教員等の勤務に関する意識調査」の結果が市教育委員会より公表され、以下の通りとなりました。

さいたま市教員等の勤務に関する意識調査結果（一部抜粋）

設問	西原中	市平均	差
教員という仕事にやりがいや満足感を感じている。	100.0%	92.7%	+7.3
負担や多忙感を感じている。	86.7%	89.2%	-2.5
職場は風通しのよい職場であると感じる。	93.3%	81.5%	+11.8
職場で教職員が協働し合う体制が整っている。	86.7%	82.6%	+4.1
職場に悩みや本音を分かち合える教職員がいる。	80.0%	71.8%	+8.2
職場で業務について相談できる教職員がいる。	86.7%	80.9%	+5.8

結果からは、市平均と比べ、本校教職員は教員という仕事にやりがいや満足感を感じ、負担や多忙感については、昨年度及び市平均を下回り、職場環境の改善が進められたことが分かります。また、風通しよく協力し合い、仲間と悩みや本音を分かち合い、相談できる学校であることが分かります。引き続き、関わる全ての人にとって Well-being な学校を目指してまいります。